

「統合失調症で淡蒼球が大きくなる事実を突きつけられたらどう攻めますか？」

田中 謙二

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所

精神科の臨床研究で得られるデータの中で、今回は特に脳構造画像データに着目したい。神経変性疾患では、脳のどこどこから萎縮が始まるというデータが全てであるし、うつ病や統合失調症も某皮質において萎縮する・しないというデータが多い。一方で、統合失調症で脳のある一領域が大きくなるというのは研究者を思考停止に陥らせる。神経・精神疾患で脳領域が大きくなることを想像できますか？ガンならともかく。。。そんな折りに、L-DOPA 誘発性ジスキネジアで淡蒼球が大きくなることを、弘前大学の富山先生が報告していることを知った。それではそこを深掘りすることでどこまで分かるのだろうかとやれることをやってみた。私達がやったことは、マウス構造 MRI と超解像顕微鏡を用いた力尽くの組織学的解析である。その結果、線条体投射神経の構造可塑性が見えてきた。この構造可塑性が統合失調症の何と関係するのか、全く分かっていない状況であるが、皆さんとデータを共有したい。